

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (地域の自然環境や教育資源を活用した事業)

おおあさ発！ふるさと夢プロジェクト
～子ども自らが語ることでできる「ふるさと学習」の創造～

北広島町

【事業のポイント】

- 可愛川を中心にした体験活動から考えるふるさと学習。
- 地域プラットフォームを土台にして、地域のすばらしさを教材化する。
- ふるさと大朝の「自然・人・知恵」と関わりながら思考を深め、生き方を学ぶ学習につなげる。
- 地域の方や専門家の方を講師に招き、ふるさとを愛する願いを学ぶ。



1. 企画

(1) 事業実施の背景

- 北広島町が推し進める「ふるさと夢プロジェクト」の一環として、ふるさと大朝の「自然・人・知恵」にかかわりながら発展的に自分の生き方を掘り下げる「ふるさと学習」を創造する。
- 事業の実施にあたっては、4～6年の総合的な学習の時間を中心に、可愛川を中心とした環境保全に関わる学習活動を柱にして、全教科領域にわたる横断的なカリキュラムを作成し、団体・個人と連携して取組を推進・発展させる。

(2) ねらい

- 大朝地域の青少年教育に関わる大人をネットワーク化し、地域の子供がふるさとの「自然・人・知恵」と関わりながら体験する機会を増やし、自分の生き方を掘り下げる学習活動に発展させる。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成

<構成メンバー一覧>(敬称略)

- | | | | |
|------------------|-------|-------------------|-------|
| ①大朝小学校校長 | 山根 昌美 | ⑫大朝地域老人会会長 | 槇本 幹雄 |
| ②大朝小学校PTA会長 | 中川 茂樹 | ⑬営農組合 | 杉野 光真 |
| ③大朝中学校校長 | 鎌田 義昭 | ⑭特別養護老人ホーム「やすらぎ」 | 中屋原 薫 |
| ④大朝保育所所長 | 矢部 美恵 | ⑮大朝地域主任児童委員 | 梶川 史子 |
| ⑤NPO法人「いーね！おおあさ」 | 堀田 高広 | ⑯総合型地域クラブ「大朝人くらぶ」 | 長田 克司 |
| ⑥青少年育成協議会大朝支部長 | 白砂 俊郎 | ⑰大朝公民館 | 槇本 妙子 |
| ⑦豊平両生爬虫類研究所 | 奥山 秀輝 | ⑱山県警察署大朝駐在所 | 妹尾 佳廣 |
| ⑧北広島町女性会大朝エリア | 山本 幸 | ⑲大朝地域協議会会長 | 平田 義孝 |
| ⑨可愛川漁協組合 | 竹内 求 | ⑳北広島町役場大朝支所長 | 清水 繁昭 |

(2) 具体的な取組の概要

①プラットフォーム会議の実施

②情報発信(学校だよりへの記事掲載, 地域公開の実施)

③各学年の可愛川を中心とした環境保全に関わるふるさと学習

【4年】大朝地域の川や山の観察・調査活動を通して、「大朝生き物図鑑」としてまとめ、地域に発信する。

【5年】米作り体験や観察・調査活動を通して、水や生物との関係から大朝米のおいしさの理由を探究し、「米作り白書」にまとめ、地域に発信する。

【6年】可愛川の整備への思いを学び、将来地域を担っていく自身の生き方を考えることができる。また、ひろしま夢ぷらざでの特産物の販売体験を通して、ふるさとへの誇りや愛着を実感する。

(3) 実績スケジュール

月	日	内 容
6月	14日	第1回プラットフォーム会議
6月	19日	<4年総合・6年総合> 日曜参観で保護者や祖父母の方から聞き取り調査
6月	28日	<6年総合> 川遊びのルール作り(講師 河野宏樹さん)
8月	5日	<4~6年総合> 川遊び体験(6年がルール発表)(職員・地域の方見守り)
9月	23日	<4年総合> 川の水生生物調査(講師 奥山秀輝さん)
9月	28日	<5年総合> 大朝の米の流通・今日的課題(講師 JA宮庄さん, 大朝支所洲浜さん)
10月	11日	<5年総合> 田んぼの生物調べ(講師 奥山秀輝さん)
11月	4日	<6年総合> 米・いも販売体験学習(ひろしま夢ぷらざ)
11月	15日	<4年総合> 川の生き物図鑑づくり(講師 奥山秀輝さん)
1月	11日	第2回プラットフォーム会議
2月	1日	「冬の自然を満喫しよう」(芸北文化ランド)
2月	3日	H28年度大朝小学校地域公開(生活科・総合的な学習の時間発表会)
3月	6日	第3回プラットフォーム会議

3. 成果と課題

(1) 成果

○可愛川を中心とした学習テーマを設定し、豊かな自然や文化にふれながら体験活動を仕組むことで、児童は大朝のすばらしさを体感し、ふるさとを誇りに思う気持ちが高まった。

○講師として地域の方や専門家の方に指導していただき、地域の自然や文化に関わる専門的な知識や川への深い思い、願い等が児童に伝わり、ふるさとにより深い愛着を感じる事ができた。

○事前に地域の方々から、可愛川の自然や文化・歴史に関する情報を得ておくことで、指導者がより効果的な体験活動を計画・実施する事ができた。

○児童が地域の「自然・人・知恵」に触れ、学んだことを発信することで、地域の方々に大朝の素晴らしさを再認識してもらう事ができた。また、地域で活躍されている身近な大人と係ることで、将来ふるさとのために貢献したいという思いを持った児童もいた。

(2) 課題

●地域の価値ある教材(自然・人・知恵)に関する情報収集が十分でない。プラットフォーム委員をはじめ、専門家や地域の方と連携を深め、新たな教材開発を進め、児童が主体的に探究していくような単元づくりをしていく。

●この取組が継続・発展するために、単元づくり・授業づくりに役立つような地域の教材(自然・人・知恵)が一目でわかるようなもの(マップ等)を作成する。

●情報発信が学校だよりと図鑑や白書でのものとなった。次年度はプラットフォームだよりや学校HP等でのタイムリーな情報発信をしていく。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

○今年度開発した教材を地域プラットフォームを活用して、さらに児童の興味関心や実態に応じた教材として開発し、主体的な学びに発展する単元づくりを研究していく。

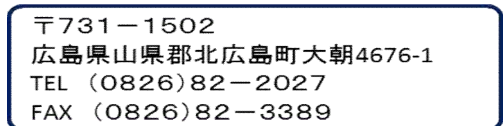
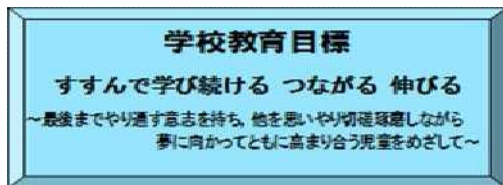
○今年度構成した「地域プラットフォーム」をもとに、来年度以降も地域の農林漁業者等の団体や協力者のネットワークを広げ、川の保全に関わる学習だけでなく、各団体等の事業への相互協力を図る。また、2年目は、今年度作成した生き物図鑑や米作り白書の充実を図り、大朝地域の自然や文化・人材に関わる地図作りを進め、観光ガイドとして活用できるものにしていく。

○さらに2年後には「大朝地域プラットフォーム」を団体として独立させ、「子どもゆめ基金」の助成や地元企業等の協賛金のもと、各団体等で相互協力して、地域主導の新たな体験活動の試行に取り組んでいく。

5. 団体プロフィール

北広島町(教育委員会生涯学習課) 〒731-1595 広島県山県郡北広島町有田1234番地
北広島町ホームページ <https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/>

北広島町立大朝小学校



子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (地域の自然環境や教育資源を活用した事業)

新庄小学校 ふるさと夢プロジェクト

北広島町

【事業のポイント】

- ①ワークショップの実施
- ②情報発信(通信発行)
- ③具体的プロジェクト
 - <野菜育成プロジェクト(1・2年)>
 - <ダイズ栽培加工プロジェクト(3年)>
 - <自然探検プロジェクト(4年)>
 - <赤米生き生きプロジェクト(5年)>
 - <新庄はやし田継承プロジェクト(全学年)>
 - <地域へ感謝と学習を発表する「ありがとうの会」プロジェクト(全学年)>



1. 企画

(1) 事業実施の背景

新庄小学校は、自然豊かな中山間地の小規模校である。新庄地域には、古くから「花田植え」のはやし田の民俗芸能が伝承されており、本校でも新庄芸術保存会の方の指導を受け、学校の伝統として受け継いでいる。また、地域との結びつきは強く、地域は協力的である。

そのような中、新庄小学校は、数年前からいろいろな地域の団体から、野菜作りやダイズ栽培、自然体験、赤米の稲作、新庄の「はやし田」(花田植え)の指導をいただき、「ふるさと夢プロジェクト」を展開している。児童は、地域の方から指導を受け、体験することで生活の知恵や思い、願いなどに触れる中で、地域を知り、地域を愛し、地域に貢献する態度が育ってきている。

そこで、本事業を希望することで、よりダイナミックに本校の「ふるさと夢プロジェクト」を展開し、ふるさとの自然を愛し、児童のふるさと新庄への思いをより強固にし、たくましく生きる児童を育てたいと考えている。また、この事業に取り組むことを通して、児童の自主性、自立性を身につけ自己肯定感を高めさせたいと考えている。

(2) ねらい

○本校が継続実施している「ふるさと夢プロジェクト」を、よりダイナミックに展開し、ふるさとの自然を愛し、児童のふるさと新庄への思いをより強固にし、たくましく生きる児童を育てる。

○地域の自然環境や教育資源の幅広い活用の仕方など協議して、地域と地域のいろいろな団体と学校がより連携を深め、協力して活動するネットワークの基盤を作る。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成

- ◎北広島町教育委員会教育長 ◎新庄小学校PTA会長 大麻 三千之 ◎新庄小学校校長 宮本 早苗
- ◎岩戸黒瀧代表 小堀 敏臣◎新庄地区連合会会長 森田 隆司 ◎新庄郷土芸術保存会代表 大下 俊幸
- ◎民生児童委員代表 梶川 史子 ◎さくら農場代表 田辺 文秋◎足谷サロン代表 宮庄 洋子
- ◎町づくり会社CC50代表 山本 正克 ◎可愛川漁協代表 竹内 求 ◎小倉の里市民農園 佐伯 勝也

(2) 具体的な取組の概要

① ワークショップの実施

② 情報発信(通信発行)

児童の体験活動を新庄小学校のホームページ, 学校便りに掲載し, 新庄地域や全国に発信する。また, 地域ローカル放送「きたひろネット」で地域に発信する。

③ 具体的プロジェクト

<野菜育成プロジェクト(1・2年)>

<ダイズ栽培加工プロジェクト(3年)>

<自然探検プロジェクト(4年)>

<赤米生き活きプロジェクト(5年)>

<新庄はやし田継承プロジェクト(全学年)>

<地域へ感謝と学習を発表する「ありがとうの会」プロジェクト(全学年)>

(3) 実績スケジュール

月	日	内 容
6月6日		第1回プラットフォーム(ワークショップ)会議
6月8日		大豆の植え付け(3年)
6月14日		サツマイモの植え付け(1・2年)
		※夏野菜の観察,学級園の草取り
		※新庄の川の学習(4年)
		※赤米観察(5年)
7月13日		足谷サロン交流会(6年)
		※夏野菜の観察及び収穫(1・2年)
		※学級園の草取り
8月21日		可愛川の自然に親しむ会(全学年),新庄の川学習(4年)
		※赤米観察(5年)
		※夏野菜の収穫
9月1日		パンジーの種まき(4年)
9月2日		大豆畑の草取り(3年)
9月5日		夏野菜の収穫と夏野菜パーティー(1・2年)
9月27日		赤米の稲刈り
10月19日		サツマイモの収穫(1・2年)
		※新庄の川の学習(4年)
11月2日		赤米のもみすり(5年)
11月15日		サツマイモパーティー(1・2年)
11月17日		大豆の収穫(3年)
11月25日		赤米の商品開発(5年)
		※新庄の川の学習(4年)
12月8日		赤米の商品開発(5年)
12月9日		宮島大聖院へ赤米奉納(5年)
12月19日		わらを使ったしめ縄づくり(全学年)
		※赤米の学習のまとめ(5年)
		※はやし田の調査権空のまとめ(6年)
2月14日		赤米を使ったお菓子作り(5年)
2月16日		ダイズを使った豆腐づくり(3年)
2月17日		ありがとうの会(全学年)
		第2回プラットフォーム(ワークショップ)会議
3月3日		はやし田引継ぎ式
		※今年度のまとめ

3. 成果と課題

(1) 成果

- 地域へ活動や内容を周知したり「ありがとうの会」で学習した内容を発表したりすることで、地域の各団体間の交流や連携が強まった。また、学校便りやホームページへ掲載したりして保護者にも学校の取組んでいる教育活動を理解していただいた。
- 学校が地域に働きかけ学校の取組みを語ることで、地域と学校の結びつきが強まり、地域の教育力を学校教育に生かすことができた。各活動がよりダイナミックになった。
- 児童が、地域の方からたくさんのことを学び、いっしょに活動することで、地域の方々のがんばりやすばらしさを知ることができた。さらに、地域の方と活動することで、児童は、新庄地域へ愛着を持ちだし新庄地域が好きになってきている。

(2) 課題

- 「ありがとうの会」では、地域や各団体への発信はできたが、保護者への働きかけが不十分であった。来年度は、保護者へ働きかけたい。
- カリキュラム開発や事業実施に関わる計画、授業時数等検討すべきである。

4. 地域プラットフォームの展望（今後の方向性・取組等）

- 「新庄小学校 ふるさと夢プロジェクト」をよりダイナミックに展開し、ふるさとの自然を愛し、児童のふるさと新庄への思いをより強固にし、たくましく生きる児童の育成を進める。そのためには、この事業を継続し、児童の自主性、自立性を身につけさせ、自己肯定感を高めさせたいと考えている。
- 地域の文化財や史跡等の有効活用
新庄地域には、多くの文化財や史跡、歴史・文化がある。それを活用した体験ができる。地域に根ざした教育が生まれると考える。行政や各関係機関が連携しネットワーク化することが必要である。
 - 児童が自然観察等の活動をするための環境整備
河川等を活用した体験学習を行なっているが、危険箇所や河川整備が進んでいない。自然豊かな地域だけに児童の学習の場として、適切な環境整備は願っていききたい。各関係機関や行政に働きかけたい。
 - 児童の活動を地域に広げるためのPRの推進
学校と関わっていき、児童が熱心に新庄地域の学習をしたり深く調べたりすることは、大事なことだと思う。「ありがとうの会」での学習発表でも分かるように、地域はまだまだ学校の取組みを知らない。もっと、PRして児童の頑張りを知らせ認めることで、地域は活性化すると思う。
 - たくましい子どもを育てるための困難な課題や失敗体験の必要性
地域の方は、児童の活動に理解していただき、丁寧に指導や支援をしていただいた。児童は少し、受身になっているところも感じている。児童の将来のことを考えると、困難な課題や失敗に直面することも大切であると思う。困難な課題や失敗に直面した時、どのようにすると解決できるのか、何が原因だったのか、今後どうすれば良いのか等、児童自ら考え、協議しよりよい解決策を見つけるたくましさが必要になってくると考える。

5. 団体プロフィール

北広島町(教育委員会生涯学習課) 〒731-1595 広島県山県郡北広島町有田1234番地
北広島町ホームページ <https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/>
電話:050-5812-2111(代表)

郵便番号 731-2103

住所 広島県山県郡北広島町新庄3497番地

TEL (0826)82-2025

FAX (0826)82-7065

<http://www.khiro.jp/shinjo-es>

E-mail/shinjo-e@stn.town.kitahiroshima.lg.jp

北広島町立新庄小学校



子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (地域の自然環境や教育資源を活用した事業)

大朝中学校夢プロジェクト ふる里の営みが守った「テングシデ」を未来に伝えたい!

北広島町

【事業のポイント】

- テングシデの学習を通じて、里山生態系の成り立ちや、人と自然との関わりについて理解を深める。
- 地域プラットフォームの形成を通じた生涯学習を行い地域との絆を深める。
- 地域と子どもとが一体となり、自然保護や里山管理・活動を推進する。
- 森の未来像を考え、発信する。



<テングシデ群落の整備作業>

1. 企画

(1) 事業実施の背景

本校の学校区には、国の特別天然記念物「テングシデ（樹木）」が群生する群落がある。自然の中で突然変異として生まれたテングシデは、地域の人たちが里山を利用していく中で、様々な伝説や昔話が生まれ語り継がれてきた。

里山の利用が少なくなった今、テングシデも衰退の一途を辿っている。一方、指定地外の林床には多くのテングシデが自生するものの、スギやヒノキなどに覆われ生育が妨げられていることから、町は平成28年度から周辺樹林の公有化を図り、群落を拡大・活性化する事業に着手することとした。

そこで、本校では、町教育委員会が進める「ふるさと夢プロジェクト」の一環で当事業を受け、本校1年生が「総合的な学習の時間」を活用して、「テングシデ」を守り、未来に伝えていく事業を進めていくこととした。

(2) ねらい

- テングシデの生育する田原地区を中心に、守る会、NPO、役場大朝支所、教育委員会と連携を図り、それまで各主体が独自に実施していた保護活動等の取組について協力して行う。
- 「総合的な学習の時間」において地域の生態系や、人と自然の関わりについて学習し、自然を活かした地域づくりについて学んだり、学習したことを発信したりできる力を身につける。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成

所 属	役 職	氏 名
田 原 老 人 ク ラ ブ 会	会 長	植本 幹雄
田 原 自 治 会	会 長	竹内 求
テ ン グ シ デ を 守 る 会	事 務 局 長	平田 義孝
総合型地域クラブ「大朝人くらぶ」	代 表	長田 克司
北 広 島 町 大 朝 支 所	支 所 長	清水 繁昭
	次 長 補 佐	植野 一也
北 広 島 町 教 育 委 員 会	生 涯 学 習 課 長	佐々木直彦
	ふるさと夢プロジェクト係	沖中 満春
広島県新庄学園広島新庄中学校	教 頭	平野 正
大 朝 中 学 校	P T A 会 長	隅岡 忠司
	校 長	鎌田 義昭

(2) 具体的な取組の概要

①プラットフォーム会議の実施

目 的: テングシデについて行っている地域の保存活動について共有するとともに、生徒の体験活動の実態を把握するとともに、生徒の体験活動を支援するための課題や地域の自然体験資源について考える。

②情報発信 学級通信, 学校だより, ホームページ等 新聞づくり 紀要作成

目 的: プラットフォーム事業の活動を紹介すると共に、生徒の身につけた力を確認し情報を発信する。

③テングシデ群落についての学習(森の将来像等)

目 的: テングシデと群落について科学的な視点と地域との関わりについて学ぶとともに地域の方々と保存活動を進め地域との結びつきを深めていく。

(3) 実績スケジュール

月 日	内 容
6月14日(火)	知る②講演「テングシデと地域との関わり」 ○竹内求さんを迎えてお話を聞く。
6月22日(水)	知る③講演「テングシデが生育している周辺の森について知り, 現在の課題を整理」 ○白川さんを迎えてお話を聞く。
6月30日(木) ~ 9月14日(水)	知る④まとめる ○新聞の構成を考える ○新聞作り
9月23日(金)	体験する「地域との協働作業」 ○下草刈り現地作業(現地)
10月19日(水) ~ 11月19日(土)	発信 ○地域公開研に向けて発表準備 ○プレゼンテーションソフトにまとめる ○地域公開研発表

3. 成果と課題

(1) 成果

- 事業を実施するに当たり、地域の代表及び保護者の代表と連携を密にしながら進めた。また、打ち合せ会やプラットフォーム会議を持ち、計画・実施に向けて共通理解が図れた。
- 生徒が活動を通じて、地域の宝であるテングシデについて興味関心を持ち、年間を通じて学習、体験活動を行うことができた。
- テングシデの群落の保存活動を地域の保存会の方々と行い交流を深めることができた。
- 事業を通じてふるさと大朝の魅力を体感し、誇りを持つことができた。

(2) 課題

- プラットフォームのメンバーの方々もそれぞれ仕事があり、会議を開くための調整が難しいため、全員がそろっての会議ができないことがあった。
- 地域の保存活動と合わせて体験活動をする日程調整が難しかった。
- 事業の発展と活動報告の発信を計画していくために今年度の事業のまとめをしっかりと行う。

4. 地域プラットフォームの展望（今後の方向性・取組等）

「子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業」をさらにパワーアップするために

- (1) 課題設定 — テングシデ、ササユリを知りふるさと大朝の魅力を広める。
平成28年度に行った活動をさらに発展させる。また、テングシデの群落周辺に群生しているササユリ(町花)についても学習と調査を進め、自分たちにできる環境保存について学習し地域の方との活動を計画する。
- (2) 情報収集 — 地域の方や守る会の方から話を聞く。
- (3) 解決策を出す — 自分たちに何が出来るかを考え計画を立てる。
- (4) 解決策を実行 — 地域の方と一緒に活動を展開していく。
- (5) 今後の方向性 — 実績を残し、情報発信を行う。

5. 団体プロフィール

北広島町(教育委員会生涯学習課) 〒731-1595 広島県山県郡北広島町有田1234番地
北広島町ホームページ <https://www.town.kitahiroshima.lg.jp/>
電話:050-5812-2111(代表)

団体名: 北広島町立大朝中学校
住 所: 広島県山県郡北広島町大朝4683-1
TEL : 0826-82-2037
FAX : 0826-82-2103
URL : <http://www/khiro.jp/oasa-ij>
Email : oasa-j@stn.town.kitahiroshima.lg.jp



<整備作業後の記念撮影>